



輝け！北っ子！

主体性の伸長

～子どもたちが生き抜くために必要な力～

今年度の学校のテーマは「主体性の伸長」です。子ども（たち）が自分（たち）の力で物事を達成していくことを目指しています。変化が激しく、よりコンピュータ、AI等が社会に入り込んでくる社会を生き抜くためには、自分で考え、判断し、行動する力、主体的で「自立した個人」が求められることとなります。「主体性」が必要なことは誰もが認めるところではないでしょうか。



しかし、「言われたことを言われたように正確に行う」ことのみを重視していたり、指示待ちで過ごしてきたり、厳しく指示することを中心に秩序を保ってきたりした場合には「主体性」を伸ばし、育てることはとても大きな壁、ハードルが高い課題になります。予想以上に時間がかかる、みんなの行動がそろわない、見栄え・できばえが今ひとつ等、これまでの価値観の中ではそぐわない実態が出てくるからです。それでも、学校は「なんとかしなくてはならない」「なんとかする」という気構えをもって主体性の伸長に取り組んでいるところです。

具体的に私たち教師が意識していることは「子どもに任せること」「子どもたちを支えること」「子どもたちから引き出すこと」「子どもに自己決定させること」「子どもの活動を価値付けること」「子ども同士を結びつけること」等があります。もちろん、主体性を育てるからといってただ待っていればいいというわけではありません。「子どもが動き出す『仕掛け』をして待つ」「子どもが気づくように事前に『種まき』をしておく」なども意識していることです。

じれっとなること、焦ることもしばしばです。子どもは（大人も）「為すことによって学ぶ」存在であると言われます。自分から行動することで身につけた気づき、知識は深く心に根ざしたものになっていきます。どうぞご家庭でも意識的に子どもたちの主体性を育てていただきたいと思います。「そんな流暢なこと言っている余裕なんてない！！」という声が聞こえてきそうですが、全てを子どもの主体性に任せるということではもちろんありません。これだけは・・・このことだったら・・・というものについて、発達段階を考慮しながら是非子どもたちに任せて欲しいと思っています。



マスクの着脱なども主体的な判断の一つになってくるものと考えています。5・8から新型コロナウイルス感染症の分類が変更になり、基本的には、屋内・屋外を問わずマスクの着用は求めています。学校では、マスク着用が推奨される場面などを指導しながらも、最終的には子どもたちが自分で考えて行動できるように見守っている状況です。ただ、運動会の徒競走などでは、息が苦しくなる場面も想定されることからマスクを外すことを声掛けすることもありますのでご了解ください。ただ、自分（の家族）には基礎疾患がある人がいて・・・、家族に高齢者が同居していてまだまだ不安で・・・等、子ども一人一人で状況が違います。ご家庭でも、子どもたちと一緒にマスクの着用（特に運動会）について話し合っただけたらと思います。

保護者の皆様からの声をお待ちしています。

～学校に対するご意見・ご感想等お気軽にお寄せください（または assist.nihonmatsukita-e@fcs.ed.jp まで）～

..... 切 り 取 り 線

